

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 25 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2009～2012

課題番号：21242001

研究課題名（和文）

東アジアにおける伝統教養の形成と展開に関する学際的研究：書院・私塾教育を中心に

研究課題名（英文）

Interdisciplinary study on formation and deployment of traditional cultures in East Asia focusing on education in private academy and school

研究代表者

吾妻 重二（AZUMA JUJI）

関西大学・文学部・教授

研究者番号：20192982

研究成果の概要（和文）：

東アジア地域、すなわち中国、韓国・朝鮮、ベトナム、日本など「漢字文化圏」といわれる諸地域における伝統教養の形成と展開を、書院・私塾における教育と講学機能を通して学際的に考察し、多くの論文、図書を公刊した。他の個別作業としては、朱熹の書院講学の記録『朱子語類』の訳注を作成し、さらに大阪の漢学塾「泊園書院」およびその蔵書「泊園文庫」を調査して『泊園書院歴史資料集』や『泊園文庫印譜集』などを公刊するとともに、充実したコンテンツをもつ「WEB 泊園書院」を公開した。

研究成果の概要（英文）：

In this project we interdisciplinarily considered the formation and deployment of traditional cultures in the areas called "Kanji cultural sphere", such as East Asia, i. e., China, South and North Korea, Vietnam, and Japan through the education and lecture function in private academy of this area. As the result, we published many papers and books.

As other specific work, we made translation and annotation of "Zhuzi Yulei", the record of Zhu xi's lecture, and also investigated "Hakuen Shoin", a private academy of Chinese classics in Osaka and "Hakuen Bunko", the collection of books of the academy. In this field, we published "Historical Documents of Hakuen Academy" and "The Collection of Seals of Hakuen Bunko", etc.. The "WEB Hakuen Shoin" with substantial contents was also released on the internet.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2010 年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
2011 年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2012 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
年度			
総計	26,700,000	8,010,000	34,710,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：東アジア、書院、私塾、儒教、『朱子語類』、泊園書院、文化交渉

1. 研究開始当初の背景

(1) これまで中国、韓国・朝鮮、日本の書院・私塾に関する個別研究は少なくない。中国に関しては盛朗西、大久保英子、林友春、高明士、鄧洪波らの研究があり、多賀秋五郎、毛礼銳らによる教育史研究も書院に論及している。朝鮮については渡辺学、丁淳睦、鄭萬祚、山内弘一の研究が注目され、ベトナムに関しては藤原利一郎、嶋尾稔、坪井善明らの研究がある。日本に関しては石川謙、石川松太郎、海原徹、R. P. ドーア、川村肇らの業績がある。私塾を主宰した中江藤樹、山崎闇斎、伊藤仁斎、荻生徂徠らの哲学の研究に至ってはおびただしい数にのぼる。

しかし従来、これら諸地域の個別研究を連結する研究はほとんどない。本研究は従来の個別研究の範囲を越え、東アジアの書院・私塾、伝統教養を視野に収めた比較研究という新たな視点に立つものである。

(2) 研究代表者の吾妻が2008年1月、関西大学で主催した国際研究集会の報告論文集『東アジアにおける書院研究』（『東アジア文化交流研究』別冊2、関西大学文化交流学教育研究拠点、2008年6月）は広域的視野のもとに中国・韓国・ベトナム・日本の代表的研究者を招いて行った共同研究であり、本研究でこの成果の高度な発展を目指すこととした。

(3) このほか『朱子語類』の訳注作成と泊園書院の調査は近世の中国と日本の伝統教養のあり方を明らかにするとともに、相互比較を行う上で重要であり、その作業も同時に遂行する。

2. 研究の目的

中国、韓国・朝鮮、ベトナム、日本の近世時期を中心に、書院・私塾の教育機能に焦点をあて、「漢字文化圏」といわれる東アジア諸地域における伝統教養がどのように形成、展開したのかを、研究者を結集して学際的に究明する。すなわち施設、運営方法、学則、講学の内容、教材と版本、指導層の性格や学派の形成、受容層の広がり、政治的役割、国家教学との関係等を文化交流・比較の視点に基づき考察する。これにより東アジアにおける伝統教養の共通性と多様性の解明につながることを期待できる。

3. 研究の方法

(1) 研究遂行にあたって次のパートを設定し、担当者を配置する。

- ①中国における書院・私塾と伝統教養
- ②朝鮮における書院・私塾と伝統教養
- ③ベトナムにおける書院・私塾と伝統教養
- ④日本における書院・私塾と伝統教養
- ⑤『朱子語類』訳注の作成
- ⑥泊園文庫の調査

(2) 一国主義に陥らず、「東アジアにおける文化の交渉・比較」という視点を常に念頭に置く。研究遂行にあたっては、個別の担当分野に沿って行うもののほかに、複数名が共同で行う機会を設けて効率化をはかる。そのために研究会、公開ワークショップ、国際シンポジウム、海外調査等を行う。また、成果は随時論文等にまとめ、学術誌や報告論文集に掲載するものとした。

4. 研究成果

(1) 主な成果

①基本的成果と「文化交流」の視点

本研究は出来上がった思想や学術を分析対象とするよりも、むしろ思想や学術が講じられ、学ばれ、教養や伝統として形成されていく過程に目を向け、教育・講学の場である「書院」「私塾」に注目した。メンバーは担当パートごとに研究を進め、また国内外の多くの研究者を結集した結果、中国、韓国・朝鮮、ベトナム、日本各国における民間教育および伝統教育の実態とその影響力、互いの共通点と相違点がかなりの程度解明された。とりわけ、これらの国々における書院や書堂、私塾、家塾、寺子屋など民間教育施設の位置づけとその性格が科挙制度の有無や国家教学、学派や宗族、祭祀などとの関係により明示されたことは重要な知見といえる。また、「文化交流」という視点が導入されたことも従来にない特色であり、各国の伝統教養の特色を浮かび上がらせるのに有効であった。論文等の具体的な成果は下記の「5. 主な発表論文等」を見られたい。

②公開ワークショップ

1. 平成21年11月29日、韓国慶尚大学校の金徳鉉教授および張源哲教授、韓国朝鮮大学校の韓叡媛教授を招聘して韓国の書院につき発表を実施するとともに、吾妻が報告を行った。
2. 同年12月1日、ベトナム漢喃研究院のディン・カック・トゥアン（丁克順、Dinh Khac Thuan）准教授を招聘し、ベトナムの教育史に関するレクチャーを実施した。

③『朱子語類』研究会

研究代表者・研究分担者・研究協力者の参加により『朱子語類』礼関係部分(巻84～巻91)訳注作成のための研究会をほぼ毎月ないし隔月1回のペースで継続的に開いた。関西大学以文館3階のプロジェクト研究室において、4年間で合計34回開催した。

これらの訳注原稿は吾妻が最終確認と訂正をほどこし、各年度末に製本して関係者に配布した(5. 主な発表論文等の〔図書〕参照)。なお、この訳注は現在、汲古書院から出版すべく原稿を整理中である。

④国際シンポジウム

1. 「朱子家礼と東アジアの文化交渉」

平成21年11月2日～4日、韓国慶尚北道安東市の韓国国学振興院において韓国国学振興院および関西大学グローバルCOE「文化交渉学教育研究拠点」共催の国際シンポジウム「朱子家礼と東アジアの文化交渉」が開かれ、本科件費研究代表者・研究分担者5名がこれに参加して研究発表を行った。このシンポジウムの報告論文集は『朱子家礼と東アジアの文化交渉』として出版した(5. 主な発表論文等の〔図書〕参照)。その際、外国語(中国語、韓国語、英語)の論文はすべて日本語訳した。

2. 「東アジアの伝統教育と泊園書院」

平成22年10月23日、関西大学において泊園記念会創立50周年の国際シンポジウム「東アジアの伝統教育と泊園書院」を本科学研究費および関西大学国際交流助成基金、泊園記念会の援助により開催した。あわせて特別記念展示「藤澤東暎・南岳・黄鵠・黄坡と石濱純太郎の学統」を関西大学内の2会場で開催した。シンポジウムの報告論文集は『泊園記念会創立50周年記念論文集』として出版した(5. 主な発表論文等の〔図書〕参照)。

3. 「東アジアの伝統教育と講学——韓国・日本・中国」

同年11月26日、関西大学において国際シンポジウム「東アジアの伝統教育と講学——韓国・日本・中国」を本科学研究費および韓国国学振興院の共催により開催した。

4. 「哲学と時代：朱子学国際学術研究会」

平成23年10月19日・20日、中国江西

省廬山白鹿洞書院において開催された国際シンポジウム「哲学と時代：朱子学国際学術研究会」に本科学研究費研究代表者・研究分担者・研究協力者4名が参加し、研究発表を行った。

⑤海外調査

1. 韓国安東地方の書院調査 平成21年10月30日～11月1日、韓国慶尚北道安東市において、慶尚大学校の張源哲教授、金徳鉉教授の案内により黙溪書院・屏山書院・紹修書院などの書院を調査した。調査の事前準備のため、최완기(チェ・ワンギ)著『한국의 서원』の日本語訳『韓国の書院』(全123頁)を同年10月、本学外国語学部の熊谷明泰教授の協力により作成し、製本して関係者に配布した。

2. 白鹿洞書院の調査 平成23年10月19日・20日、中国江西省廬山白鹿洞書院において開催された国際シンポジウム「哲学と時代：朱子学国際学術研究会」において白鹿洞書院を調査した。白鹿洞書院は近世東アジアの書院のモデルになった重要な書院である。

3. 周惇頤の墓の調査 上記の白鹿洞書院調査後の平成23年10月21日、廬山北方の九江市郊外にある周惇頤の墓を調査した。

⑥泊園書院の研究

1. データベースの構築 平成21年度、関西大学図書館が所蔵する大阪の漢学塾・泊園書院の蔵書「泊園文庫」の調査を開始するとともに、データベース検索システム構築を凸版印刷株式会社に外部発注した。

2. 「WEB 泊園書院」の作成と公開 コンテンツを整備、充実させ、平成23年11月18日、「WEB 泊園書院」を関西大学東西学術研究所ホームページ上に公開した。

3. 国際シンポジウムの開催 平成22年10月23日、泊園記念会創立50周年の国際シンポジウム「東アジアの伝統教育と泊園書院」を開催した(上記④-2)。

4. 自筆稿本目録の作成と刊行 吾妻の編集により、平成23年度に『関西大学泊園文庫 自筆稿本目録稿(甲部)』を、平成24年度に『関西大学泊園文庫 自筆稿本目録稿(丙部)』を作成した。

5. 泊園書院歴史資料集の刊行 平成22年度、『泊園書院歴史資料集——泊園書院資料集成1』を、平成24年度、『泊園文庫印譜集——泊園書院資料集成2』を刊行した(5. 主な発表論文等の〔図書〕参照)。

⑦総括報告書の作成

平成25年3月、本研究の総括報告書として『東アジアにおける伝統教養の形成と展開に関する学際的研究：書院・私塾教育を中心に』(研究代表者：吾妻重二，平成21年度～平成24年度科学研究費補助金・基盤研究(A) 研究成果報告書，課題番号21242001，全501頁)をまとめ、製本して関係各方面に配布した。この報告書には本研究の計画、経過とともに、研究分担者・研究協力者の主要論文を掲載している。

(2) 成果の国内外における位置づけとインパクト

国際シンポジウムの開催と参加、公開ワークショップの開催等により、一国主義を超えた東アジアの視点による成果が発信できた。中国においては鄧洪波(湖南大学岳麓書院)、李弘祺(台湾・国立清華大学)ら書院研究の世界的権威と協力することができ、韓国に関しては韓国国学振興院、鄭萬祚(中国書院学会会長)、李相海(成均館大学校、ユネスコ世界遺産委員)、張源哲(慶尚大学校)らと学術交流を重ねることができた。ベトナムに関してはディン・カック・トゥアン(漢喃研究院)と緊密な関係を築いた。これらのことは本研究のハブとしての位置をアピールするとともに、今後、学術交流と相互理解を進めるうえで重要な基礎を作ったといえる。

(3) 今後の展望

「漢字文化圏」といわれる東アジア諸地域の伝統教養がどのように形成され、展開したのかについては引き続き究明が必要である。本研究は書院・私塾を中心とする伝統教育のありようを「文化の交渉」という視点から探求したものであるが、今後、この「文化交渉」の視点により、他文化の受容と定着、変容といったダイナミックな様相の研究が視野に入ってくると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計137件)

1. 澤井啓一，「東アジア儒学史における『心経附註』」，『東アジアにおける伝統教養の形成と展開に関する学際的研究：書院・私塾教育を中心に』，研究代表者：吾妻重二，平成21年度～平成24年度科学研究費補助金・基盤研究(A) 研究成果報告書，査読無し，2013年，79-90頁
2. 藪田 貫，「泊園書院と「尊道卷」—藤澤東畷とその周辺」，『東アジアにおける伝統教養の形成と展開に関する学際的研究：書院・私塾教育を中心に』，研究代表者：吾妻重二，平成21年度～平成24年度科学研究費補助金・基盤研究(A) 研究成果報告書，査読無し，2013年，445-464頁
3. 藤田高夫，「蜀の学堂—漢代成都の郡国学」，『関西大学文学論集』第62巻第4号，査読無し，2013年，1-21頁
4. 篠原啓方，「6世紀前葉から中葉における新羅の「教」とその主体について」，『東アジア文化交渉研究』第6号(関西大学文化交渉学教育研究拠点)，査読無し，2013年，449-459頁
5. 吾妻重二，「文化交渉と日本の私塾および泊園書院」，『東アジア文化交渉研究』第5号(関西大学文化交渉学教育研究拠点)，査読無し，2012年，23-38頁
6. AZUMA, Juji，The Private Academies of East Asia: Research Perspectives and Overview, *Cultural Interaction Studies in East Asia, New Methods and Perspective*, edited by TAO Demin & FUJITA Takao (Kansai University, Global COE)，査読無し，2012，pp.75-93
7. 三浦國雄，「『朱子語類』の読まれ方—新発田藩の一儒者の書き入れを巡って—」，『東洋学』第123輯(東方学会)，査読有り，2012年，1-19頁
8. 二階堂善弘，「關於民間寺廟祭孔の狀況—以閩台地區為主」(中国語)，『東アジア文化交渉研究』別冊8(関西大学文化交渉学教育研究拠点)，査読無し，2012年，61-68頁
9. 陶 徳民，「日本の書院・私塾に関する研究とその問題意識—最近二十五年の主要研究事例に見る—」，吾妻重二編『泊園記念会創立50

- 周年記念論文集』（関西大学出版部），査読無し，2011年，203-223頁
10. 湯浅邦弘，「幕末大坂の知的拠点—懐徳堂・適塾・泊園書院—」，吾妻重二編『泊園記念会創立50周年記念論文集』（関西大学出版部），査読無し，2011年，121-142頁
 11. 湯浅邦弘，「懐徳堂研究の可能性—韓国の書院と祖先祭祀儀礼から考える—」，『懐徳堂研究』第1号（大阪大学），査読無し，2010年，3-13頁
 12. 吾妻重二，「日本江戸初期學塾之發展與中國、朝鮮」（中国語），田浩（Hoyt Tillman）編『文化与歴史的追索 余英時教授八秩壽慶論文集』（台湾・聯経出版事業股份公司），査読無し，2009年，135-161頁
 13. 原田正俊，「日本仏教史のなかの五山禪宗」，『中国—社会と文化』第24号（東京大学），査読有り，2009年，195-210頁

〔学会発表〕（計92件）

1. 湯浅邦弘，「日本儒教と大阪懐徳堂」，《儒教的新復興》儒教文化圏国際学術会議（招待講演），2012年11月17日，成均館大学校（韓国）
2. 井澤耕一，「南宋末、士大夫たちは「四書」を如何に読み解いたのか—上海図書館蔵『金匱要略方』の紙背文献に関する一考察—」，日本中国学会第64回大会，2012年10月7日，大阪市立大学
3. 三浦國雄，「狩野文庫本『豫斎先生訓門人會読筭記』を読む」，東北中国学会，2012年5月26日，東北大学マルチメディアホール
4. 吾妻重二，「東アジアの伝統教育と書院—中国・韓国・日本・ベトナム—」，第4回東アジア文化交渉学会，2012年5月12日，高麗大学校（韓国）
5. 吾妻重二，「書院文化与近世中国・東亜世界」（中国語），国際シンポジウム「哲学与時代：朱子学国際学術研討会」基調講演（招待講演），2011年10月19日，江西省白鹿洞書院（中国）
6. 澤井啓一，「安東省菴に見る陽明学との「対話」」，第8回江華陽明学国際学術大会，2011年10月14日，仁川市・江華青少年修練館（韓国）
7. 藤田高夫，「漢代の官吏任用と学問修養—教育制度の周辺から—」，国際シンポジウム「東アジアの伝統教育と講学—韓国・日本・中国」，2010年11月26日，関西大学

8. 三浦國雄，「上総道学と新発田藩学の交流—『朱子語類』訓門人巻を中心に—」，国際シンポジウム「東アジアの伝統教育と講学—韓国・日本・中国」，2010年11月26日，関西大学
9. 澤井啓一，「水戸の私塾—藤田幽谷の青藍舎が誕生するまで」，国際シンポジウム「東アジアの伝統教育と講学—韓国・日本・中国」，2010年11月26日，関西大学
10. 増田周子，「泊園書院関係の大阪ジャーナリスト 津田貞の偉業」，国際シンポジウム「東アジアの伝統教育と講学—韓国・日本・中国」，2010年11月26日，関西大学
11. 陶徳民，「大正後期の「漢文直読」論をめぐる学問と政治—文化交渉学の視点による考察—」，日本中国学会第62回大会，2010年10月10日，広島大学
12. 吾妻重二，「儒教における神々の祭祀とその特徴」（招待講演），東方学会第55回国際東方学者会議・関西部会，2010年5月29日，京都市国際交流会館
13. 吾妻重二，「日本における『家礼』の受容—林鷲峰『泣血余滴』、『祭奠私儀』を中心に—」，国際シンポジウム「주자가례와 동아시아 문화교섭」（朱子家礼と東アジアの文化交渉），2009年11月4日，韓国国学振興院（韓国・安東市）

〔図書〕（計40件）

1. 吾妻重二編集，『東アジアにおける伝統教養の形成と展開に関する学際的研究：書院・私塾教育を中心に』（研究代表者：吾妻重二，平成21年度～平成24年度科学研究費補助金・基盤研究（A）研究成果報告書、課題番号21242001），吾妻重二（本科研による製本），2013年，全501頁
2. 吾妻重二編著，『泊園文庫印譜集—泊園書院資料集成2』関西大学東西学術研究所資料叢刊29-2，関西大学出版部，2013年，全188頁
3. 藪田 貫，『泊園書院関係碑文調査報告書』，関西大学東西学術研究所泊園記念会，2012年，全382頁
4. 吾妻重二整理，『『朱子語類』礼関係部分 訳注4』，吾妻重二（本科研による製本），2012年，全124頁
5. 吾妻重二・朴元在編，『朱子家礼と東アジアの文化交渉』，汲古書院，2012年，全486頁
6. 吾妻重二編『泊園記念会創立50周年記念論

- 文集』, 関西大学出版部, 2011年, 全310頁
7. 吾妻重二整理, 『朱子語類』礼関係部分 訳注 3』, 吾妻重二 (本科研による製本), 2011年, 全106頁
 8. 原田正俊編, 『天龍寺文書の研究』, 思文閣出版, 2011年, 全720頁
 9. 呉震・吾妻重二主編, 『思想与文献 日本学者宋明儒学研究』, 華東師範大学出版社 (中国・上海), 2010年, 440頁
 10. 吾妻重二編著, 『泊園書院歴史資料集——泊園書院資料集成1』 関西大学東西学術研究所資料叢刊29-1, 2010年, 全544頁
 11. 吾妻重二整理, 『朱子語類』礼関係部分 訳注 2』, 吾妻重二 (本科研による製本), 2010年, 全108頁
 12. 吾妻重二・白井順編集, 熊谷明泰訳, 『韓国の書院』 (최완기著 『한국의 서원』 [대원사] 日本語訳), 吾妻重二 (本科研による製本), 2010年, 全123頁

[その他]

ホームページ等

WEB 泊園書院:

<http://www.db1.csac.kansai-u.ac.jp/hakuen/>

研究代表者・吾妻重二の関西大学学術情報システム Web ページ:

<http://gakujo.kansai-u.ac.jp/profile/ja/xalfdb20Qb1cfebf6T5daa0bsI.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吾妻 重二 (AZUMA JUJI)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 20192982

(2) 研究分担者

三浦 國雄 (MIURA KUNIO)

関西大学・東西学術研究所・委嘱研究員

研究者番号: 60027555

陶 徳民 (TOU TOKUMIN)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 40288791

湯浅 邦弘 (YUASA KUNIHIRO)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号: 30182661

二階堂 善弘 (NIKAI DO YOSHIHIRO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 70292258

藤田 高夫 (FUJITA TAKAO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 90298836

澤井 啓一 (SAWAI KEIICHI)

恵泉女学園大学・人文学部・名誉教授

研究者番号: 50154141

井澤 耕一 (IZAWA KOICHI)

茨城大学・人文学部・准教授

研究者番号: 00455908

藪田 貫 (YABUTA YUTAKA)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 80027987

原田 正俊 (HARADA MASATOSHI)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 40278883

増田 周子 (MASUDA CHIKAKO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 30294664

篠原 啓方 (SHINOHARA HIROKATA)

関西大学・文学部・准教授

研究者番号: 90512707

西村 昌也 (NISHIMURA MASANARI) (平成21年度まで)

関西大学・文化交渉学教育研究拠点・助教

研究者番号: 60469236

(3) 連携研究者

于 臣 (U SHIN) (平成19年度まで)

関西大学・文化交渉学教育研究拠点・PD

研究者番号: 70433373